

## 桐生新町重要伝統的建造物群保存地区周辺散策

第1回街中散策が10月28日行われました。理工学部池の周りに集合し、“織都桐生”案内人の会の会員さんに案内していただきました。ガイド役は、桐生支部会員でもある高野さん、他に通訳の方と交通整理係とおっしゃる方が同行してくださいました。皆さん、英語が堪能で、英語で説明していただきました。留学生5名、桐生支部からは6名が参加しました。

大学から道路を横断し、今年国指定重要文化財に決定した天満宮から説明していただきました。徳川家康とのかかわり、桐生が天領であったことも説明されました。本殿、幣殿の外壁には極彩色の精巧かつ華麗な彫刻が施されていて、長年桐生に住んでる会員にとっても、耳新しいことが多々ありました。

次いでベーカリーカフェレンガ内にある絹遊塾工房風花で、ガラ紡を用いた絹綿から糸を作る工程を見せていただき、絹綿から羊を模した小物を作り、記念にいただきました。

続いて、道向かいの築100年以上の古民家、四辻の齋嘉の屋敷内を案内、説明していただきました。創建当時から凹凸のあるガラス窓がそのまま残っていて、歴史を感じました。

その後、本町通りを下りながら、伝統的建造物群の説明をしていただきました。学生時代お世話になった方もいらっしゃると思いますが、天満宮近くの築110年の銭湯“一の湯”は一時廃業されたのですが、埼玉県から移り住んだ方が、クラウドファンディングで資金を調達し、修繕・改装し、営業が再開されています。

本町通り両側の建造物を見ながら、有鄰館(旧矢野11棟の蔵群)まで歩き、解散しました。桐生ファッションウィークの期間中であったため、催し物も、人出も多く、楽しい時間を過ごすことができました。何処でも歓待していただき、桐生の方々のおもてなし、親切を肌で感じたひと時でした。ご協力くださいました皆様に感謝申し上げます。

写真を載せますので、学生時代を懐かしく思い出していただけると幸いです。

桐生支部参加者一同



天満宮拝殿



天満宮彫刻



工房風花



工房風花にて  
繭からの小物づくり  
みんな真剣です



斎嘉にて



一の湯



有鄰館にて記念撮影